



VSM および VEM モジュール

この章では、モジュールに関連する問題を識別して解決する方法について説明します。この章の内容は次のとおりです。

- 「モジュールについて」 (P.6-1)
- 「VSM にモジュールが表示されない場合のトラブルシューティング」 (P.6-1)
- 「コマンド」 (P.6-14)

モジュールについて

Cisco Nexus 1000V は、VirtualCenter で定義されたデータセンターを管理します。データセンター内の各サーバは、1つのモジュールとして表され、物理的な Cisco スイッチ内のモジュールと同じように管理できます。

Cisco Nexus 1000V の実装は、次の2つの部分で構成されます。

- Virtual Supervisor Module (VSM; 仮想スーパーバイザモジュール) : Cisco Nexus 1000V 分散仮想スイッチの制御ソフトウェア。Virtual Machine (VM; 仮想マシン) 上で稼動し、Cisco NX-OS ソフトウェアをベースとします。
- Virtual Ethernet Module (VEM; 仮想イーサネットモジュール) : Cisco Nexus 1000V で実際にデータトラフィックのスイッチングを行う部分。VMware ESX 4.0 ホスト上で実行されます。複数の VEM が、1つの VSM によって制御されます。スイッチドメインを形成するすべての VEM が、VMware VirtualCenter で定義されたとおりに同一の仮想データセンター内にはなりません。

VSM にモジュールが表示されない場合のトラブルシューティング

このセクションでは、VSM 上にモジュールが表示されない場合に使用できるプロセスについて説明します。ここでは、次の内容について説明します。

- 「モジュールのトラブルシューティングに関する注意事項」 (P.6-2)
- 「モジュールのトラブルシューティングのフローチャート」 (P.6-3)
- 「VSM が vCenter Server に接続されているかどうかの確認」 (P.6-4)
- 「VSM が正しく設定されているかどうかの確認」 (P.6-5)
- 「vCenter Server 設定の確認」 (P.6-8)
- 「VSM と VEM の間のネットワーク接続の確認」 (P.6-8)
- 「VEM 設定の確認」 (P.6-11)
- 「ログの収集」 (P.6-13)

モジュールのトラブルシューティングに関する注意事項

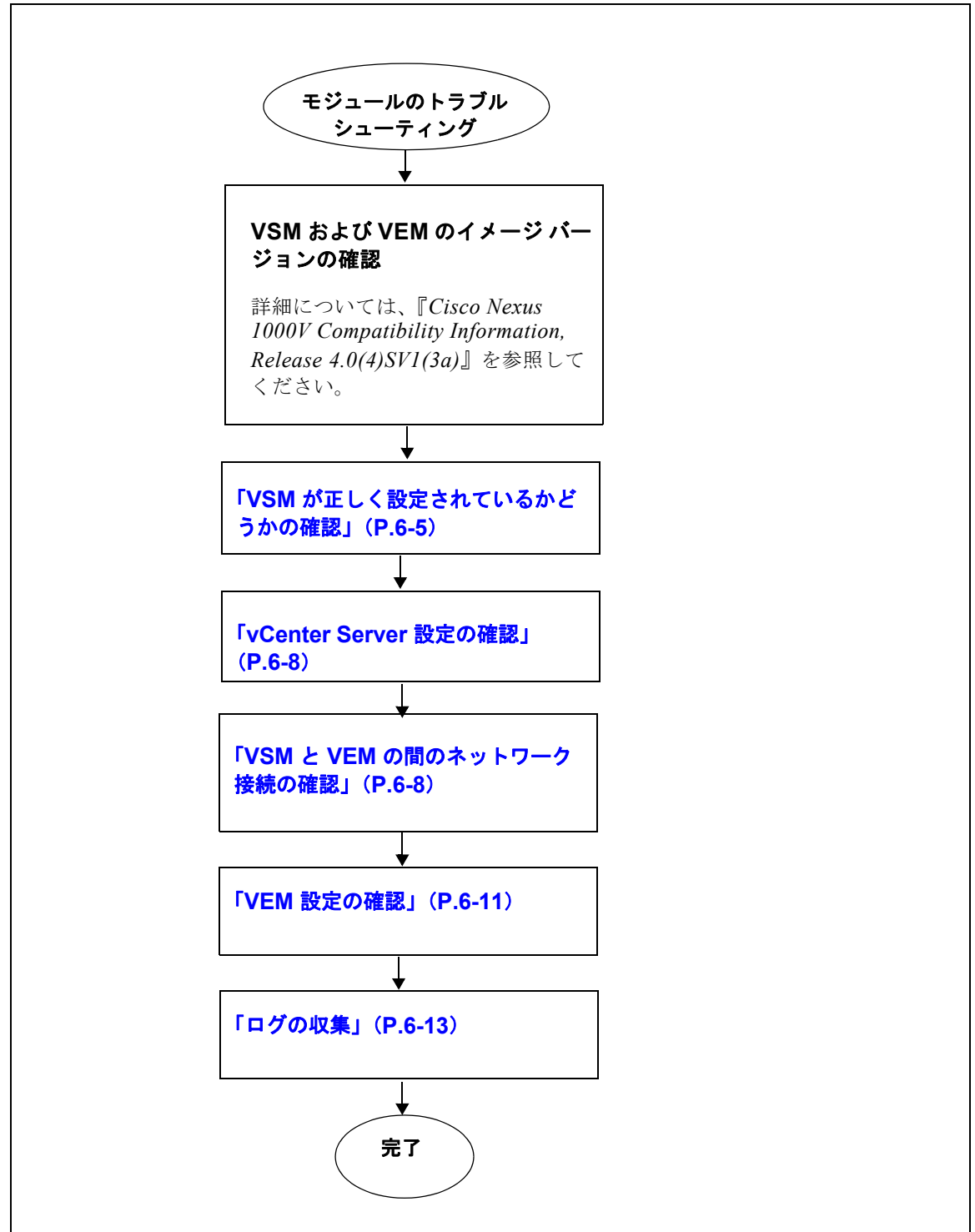
VSM によって制御されているモジュールのトラブルシューティング時には、次の注意事項に従ってください。

- VSM VM および VEM が起動し、動作している必要があります。
- 互換性のあるバージョンの vCenter Server および VSM が動作していることを確認します。
詳細については、『*Cisco Nexus 1000V Compatibility Information, Release 4.0(4)SV1(3a)*』を参照してください。
- vCenter Server の IP アドレスを ping して、VSM と vCenter Server の間のネットワーク接続を確認します。Domain Name Service (DNS; ドメイン ネーム サービス) 名を使用している場合は、その DNS 名を使用して ping します。vCenter Server の ping に失敗した場合は、ゲートウェイを ping できるかどうかを調べます。それ以外の場合は、mgmt0 インターフェイスのコンフィギュレーション設定を調べます。
- vCenter Server のファイアウォール設定がオフになっていることを確認します。ファイアウォール設定を使用する場合は、次のポートが開いているかどうかを調べます。
 - ポート 80
 - ポート 443
- 次のエラーが表示された場合は、VSM 拡張が vCenter Server から作成されているかどうかを確認します。
 - ERROR: [VMware vCenter Server 4.0.0 build-150489]
Extension key was not registered before its use拡張またはプラグインが作成されたことを確認するには、「[特定の DVS に結び付けられた拡張キーの確認](#)」(P.3-9) の手順を参照してください。
拡張キーまたはプラグインの詳細については、「[拡張キーの管理](#)」(P.3-7) を参照してください。
- 次のエラーが表示された場合は、「[vCenter Server 設定の確認](#)」(P.6-8) の手順を参照してください。
 - ERROR: Datacenter not found
- Cisco Nexus 1000V で使用される用語のリストについては、『*Cisco Nexus 1000V Getting Started Guide, Release 4.0(4)SV1(3)*』を参照してください。

モジュールのトラブルシューティングのフローチャート

モジュールのトラブルシューティングには、次のフローチャートを使用します。

フローチャート：モジュールのトラブルシューティング



VSM が vCenter Server に接続されているかどうかの確認

次の手順に従って、VSM が vCenter Server に接続されていることを確認できます。

ステップ 1 VSM と vCenter Server の間の接続を確認します。

show svcs connections

出力に、動作ステータスが「**Connected**」と表示される必要があります。

例:

```
n1000v# show svcs connections
connection vc:
  ip address: 172.23.231.223
  protocol: vmware-vim https
  certificate: user-installed
  datacenter name: hamilton-dc
  DVS uuid: 92 7a 14 50 05 11 15 9c-1a b0 f2 d4 8a d7 6e 6c
  config status: Disabled
  operational status: Disconnected
```

ステップ 2 次のいずれかを行います。

- ステータスが「**Connected**」の場合は、「[フローチャート：モジュールのトラブルシューティング \(P.6-3\)](#)」に戻ります。
- 「**Connected**」でない場合は、次のステップに進みます。

ステップ 3 vCenter Server に接続します。

config t

svcs connection datacenter_name

connect

例:

```
n1000v# conf t
n1000v(config)# svcs connection HamiltonDC
n1000v(config-svs-conn)# connect
```

例:

```
n1000v# conf t
n1000v(config)# svcs connection HamiltonDC
n1000v(config-svs-conn)# connect
ERROR: [VMWARE-VIM] Extension key was not registered before its use.
```

ステップ 4 次のいずれかを行います。

- 拡張キーに関するエラー メッセージが表示されたら、次のステップに進みます。
- 表示されない場合は、[ステップ 6](#)に進みます。

ステップ 5 次のいずれかを行ってから、[ステップ 6](#)に進みます。

- 「[vCenter Server の拡張キーの登録解除 \(P.3-13\)](#)」の手順を使用して拡張キーを登録解除します。
- 『Cisco Nexus 1000V Getting Started Guide, Release 4.0(4)SV1(3)』の次の手順を使用して、新しい拡張キーをインストールします。
 - 「[Creating a Cisco Nexus 1000V Plug-In on the vCenter Server](#)」

ステップ 6 VSM と vCenter Server の間の接続を確認します。

show svcs connections

出力に、動作ステータスが「**Connected**」と表示される必要があります。

例:

```
n1000v# show svcs connections
connection vc:
  ip address: 172.23.231.223
  protocol: vmware-vim https
  certificate: user-installed
  datacenter name: hamilton-dc
  DVS uuid: 92 7a 14 50 05 11 15 9c-1a b0 f2 d4 8a d7 6e 6c
  config status: Disabled
  operational status: Disconnected
```

ステップ 7 次のいずれかを行います。

- ステータスが「**Connected**」の場合は、この手順は完了しています。
- 「**Connected**」でない場合は、「[フローチャート：モジュールのトラブルシューティング](#)」(P.6-3)に戻ります。

VSM が正しく設定されているかどうかの確認

ここでは、VSM 設定の確認手順について説明します。

- 「[ドメイン設定の確認](#)」(P.6-5)
- 「[システム ポート プロファイル設定の確認](#)」(P.6-6)
- 「[コントロールおよびパケット VLAN の設定の確認](#)」(P.6-7)

ドメイン設定の確認

次の手順に従って、ドメイン設定を確認できます。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしている。
- **show svcs domain** コマンドの出力が、次のことを示している。
 - コントロール VLAN とパケット VLAN の存在。
 - ドメイン設定が正常に VC にプッシュされている。

ステップ 1 VSM で、ドメイン設定を確認します。

```
show svcs domain
```

例:

```
n1000v# show svcs domain
SVS domain config:
  Domain id: 682
  Control vlan: 3002
  Packet vlan: 3003
  L2/L3 Control VLAN mode: L2
  L2/L3 Control VLAN interface: mgmt0
  Status: Config push to VC successful
```

システム ポート プロファイル設定の確認

この手順に従って、次のように設定されたポート プロファイルが少なくとも 1 つあることを確認できます。

- ポート プロファイル タイプがイーサネットである。
- ポート プロファイルにシステム VLAN がある。
- ポート プロファイルがトランク モードで設定されている。
- 許可された VLAN のリストは、システム VLAN のリストのスーパーセット、または同じリストである。

システム ポート プロファイルの詳細については、『*Cisco Nexus 1000V Port Profile Configuration Guide, Release 4.0(4)SV1(3)*』を参照してください。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしている。
- システム ポート プロファイルの名前がわかっている。

手順の詳細

ステップ 1 VSM で、システム ポート プロファイル設定を確認します。

show port-profile name system-port-profile-name

例:

```
n1000v# show port-profile name system-uplink
port-profile system-uplink
  description: "System profile for critical ports"
  type: ethernet
  status: enabled
  capability l3control: no
  pinning control-vlan: -
  pinning packet-vlan: -
  system vlans: 260
  port-group: system-uplink
  max ports: -
  inherit:
  config attributes:
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 260
    no shutdown
  evaluated config attributes:
    switchport mode trunk
    switchport trunk allowed vlan 260
    no shutdown
  assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#
```

コントロールおよびパケット VLAN の設定の確認

次の手順を使用して、コントロール VLAN とパケット VLAN が VSM に設定されていることを確認できます。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- EXEC モードで CLI にログインしている。
- コントロール VLAN とパケット VLAN の VLAN ID がわかっている。
コントロール VLAN とパケット VLAN は、同一 VLAN の場合も別個の VLAN の場合もあります。
VLAN ID がわからない場合は、**show running-config** コマンドを使用します。
- コントロール VLAN とパケット VLAN が、システム ポート プロファイル内でシステム VLAN でもある。

ステップ 1 VSM で、コントロール VLAN とパケット VLAN を確認します。

show running-config vlan *vlan-id*

例：
n1000v# **show running-config vlan 260-261**
version 4.0(4)SV1(3)
vlan 260
 name cp_control
vlan 261
 name cp_packet
n1000v#

例：
n1000v# **show running-config**
version 4.0(4)SV1(3)
...
vlan 260
 name cp_control
vlan 261
 name cp_packet
...
n1000v#

ステップ 2 VSM で、コントロール VLAN とパケット VLAN が、システム ポート プロファイル内でシステム VLAN でもあることを確認します。

show port-profile name *system-port-profile-name*

例：
n1000v# **show port-profile name system-uplink**
port-profile system-uplink
 description: "System profile for critical ports"
 type: ethernet
 status: enabled
 capability l3control: no
 pinning control-vlan: -
 pinning packet-vlan: -
 system vlans: 260
 port-group: system-uplink
 max ports: -
 inherit:

■ VSM にモジュールが表示されない場合のトラブルシューティング

```

config attributes:
  switchport mode trunk
  switchport trunk allowed vlan 260
  no shutdown
evaluated config attributes:
  switchport mode trunk
  switchport trunk allowed vlan 260
  no shutdown
assigned interfaces:
n1000v(config-port-prof)#

```

ステップ 3 次のいずれかを行います。

- コントロール VLAN とパケット VLAN が存在し、システム ポート プロファイル内でシステム VLAN でもある場合、この手順は完了しています。
- そうでない場合は、『Cisco Nexus 1000V Getting Started Guide, Release 4.0(4)SV1(3)』の次の手順を使用して設定します。

「*Configuring the System Port Profile for VSM-VEM Communication*」

vCenter Server 設定の確認

vSphere クライアントから次の手順に従って、vCenter Server 設定を確認できます。

- ステップ 1** データセンターとそのデータセンターの **n1000V DVS** に、ホストが追加されていることを確認します。
- ステップ 2** ホストの 1 つ以上の **pnlc** が DVS に追加され、その **pnlc** が **system-uplink** プロファイルに割り当てられていることを確認します。
- ステップ 3** コントロール VLAN、パケット VLAN、および管理ネットワークが含まれるポート グループに 3 つの VSM **vnic** が割り当てられていることを確認します。

VSM と VEM の間のネットワーク接続の確認

次の手順に従って、VSM と VEM の間のレイヤ 2 ネットワーク接続を確認できます。

ESX ホストにログインしている。

ESX ホストにつき VEM 1 つ。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- VSM CLI に EXEC モードでログインしている。
- VEM にログインしている。
- アップストリーム スイッチの CLI にログインしている。

ステップ 1 VSM 上で、MAC アドレスを確認します。

show svcs neighbors

VSM MAC アドレスは、AIPC Interface MAC として表示されます。

ホストのユーザ VEM Agent MAC アドレスは、Src MAC として表示されます。

例:

```
n1000v# show svcs neighbors
```

```
Active Domain ID: 1030
```

```
AIPC Interface MAC: 0050-568e-58b7
```

```
Inband Interface MAC: 0050-568e-2a39
```

Src MAC	Type	Domain-id	Node-id	Last learnt (Sec. ago)
0002-3d44-0602	VEM	1030	0302	261058.59

ステップ 2 次のいずれかを行います。

- **ステップ 1** で **show svcs neighbors** コマンドの出力に VEM MAC アドレスが表示されない場合は、VSM をホストしているサーバとアップストリームスイッチの間の接続に問題があります。VSM 設定と vCenter Server 設定をもう一度調べてください。
- それ以外の場合は、次のステップに進みます。

ステップ 3 VEM 上で、**ステップ 1** で見つかった VSM MAC アドレスを使用して、vem-health スクリプトを実行します。



(注) そのパスに vem-health スクリプトがない場合は、/usr/lib/ext/cisco/nexus/vem*/sbin/ で見つかります。

vem-health check vsm_mac_address

vem-health スクリプトの出力では、接続問題の原因と、トラブルシューティングで推奨される次のステップが示されます。

例:

```
~ # vem-health check 00:50:56:a3:36:90
```

```
VSM Control MAC address: 00:50:56:a3:36:90
```

```
Control VLAN: 90
```

```
DPA MAC: 00:02:3d:40:5a:03
```

```
VSM heartbeats are not reaching the VEM.
```

```
Your uplink configuration is correct.
```

```
Recommended action:
```

```
Check if the VEM's upstream switch has learned the VSM's Control MAC.
```

ステップ 4 次のいずれかを行います。

- **ステップ 3** の VEM ヘルス チェックでアップストリーム スイッチへの接続に問題があることが示された場合は、次のステップに進んでください。
- それ以外の場合は、**ステップ 7** に進みます。

VSM にモジュールが表示されない場合のトラブルシューティング

ステップ 5 アップストリーム スイッチで、MAC アドレス テーブルを表示してネットワーク設定を確認します。

```
例:
switch# show mac address-table interface Gi3/1 vlan 3002
Legend: * - primary entry
        age - seconds since last seen
        n/a - not available

   vlan  mac address      type    learn    age           ports
-----+-----+-----+-----+-----+-----
Active Supervisor:
* 3002  0050.56be.7ca7  dynamic Yes           0    Gi3/1

switch# show mac address-table interface Gi3/2 vlan 3002
Legend: * - primary entry
        age - seconds since last seen
        n/a - not available

   vlan  mac address      type    learn    age           ports
-----+-----+-----+-----+-----+-----
Active Supervisor:
* 3002  00:02:3d:40:0b:0c  dynamic Yes           0    Gi3/2
```

ステップ 6 次のいずれかを行います。

- [ステップ 5](#) の出力に VSM の MAC アドレスが表示されない場合は、VSM をホストしているサーバとアップストリーム スイッチとの間の接続に問題があります。VSM 設定と vCenter Server 設定をもう一度調べてください。
- それ以外の場合は、次のステップに進みます。

ステップ 7 VEM 上で次のコマンドを入力して、VSM MAC がコントロール VLAN とパケット VLAN に表示されることを確認します。

config t

module vem module_number execute vemcmd show l2 control_vlan_id

module vem module_number execute vemcmd show l2 packet_vlan_id

ホストコントロール VLAN およびパケット VLAN に、VSM eth0 MAC アドレスと eth1 MAC アドレスが表示されている必要があります。

```
例:
n100v# config t
n1000v(config)# module vem 3 execute vemcmd show l2 3002
Bridge domain 3002 brtmax 100, brtcnt 3, timeout 120
  Dynamic MAC 00:50:56:be:7c:a7 LTL 16 pvlan 0 timeout 110
  Dynamic MAC 00:02:3d:40:0b:0c LTL 10 pvlan 0 timeout 110

n1000v(config)# module vem 3 execute vemcmd show l2 3003
Bridge domain 3002 brtmax 100, brtcnt 3, timeout 120
  Dynamic MAC 00:50:56:be:7c:a7 LTL 16 pvlan 0 timeout 110
  Dynamic MAC 00:02:3d:20:0b:0c LTL 10 pvlan 0 timeout 110
```

ステップ 8 次のいずれかを行います。

- VSM の MAC アドレスが [ステップ 7](#) の出力に表示されない場合は、「[VEM 設定の確認](#)」(P.6-11) の説明に従って VEM 設定を調べます。
- それ以外の場合は、この手順は完了です。

VEM 設定の確認

次の手順に従って、ESX ホストが VEM 設定を受け取り、セットアップされていることを確認できます。

はじめる前に

この手順を開始する前に、次のことを確認または実行する必要があります。

- VEM にログインしている。
- ポート LTL 番号がポート インデックス番号 (48 など) である。

ステップ 1 ESX ホスト上で次のコマンドを使用して、VEM エージェントが稼動しており、正しいホストリンクが DVS に追加されていることを確認します。

vem status

例:

```
~ # vem status
VEM modules are loaded
```

Switch Name	Num Ports	Used Ports	Configured Ports	MTU	Uplinks
vSwitch0	64	3	64	1500	vmnic0
DVS Name	Num Ports	Used Ports	Configured Ports	Uplinks	
n1000v	256	9	256	vmnic1	VEM Agent is running

ステップ 2 次のコマンドを使用して、アップリンク上の間違った MTU 値が原因で失われた接続を復元します。

vemcmd show port port-LTL-number

vemcmd set mtu size ltl port-LTL-number

ESX の MTU がリセットされ、接続が復元されます。

例:

```
~ # vemcmd show port 48
LTL   IfIndex  Vlan   Bndl  SG_ID Pinned_SGID  Type  Admin State  CBL Mode
Name  . . .
17   1a030100   1 T   304    1           32  PHYS      UP    UP    1  Trunk vmnic1
~# vemcmd set mtu 9000 ltl 17
```



(注) これらの **vemcmd** コマンドは回復手段だけに使用して、システム アップリンクの場合はポート プロファイル設定内、システム以外のアップリンクの場合はインターフェイス設定内の MTU 値を更新します。

ステップ 3 次のコマンドを使用して、ドメイン ID、コントロール VLAN、およびパケット VLAN がホスト上に正しく設定されていることを確認します。

vemcmd show card

例:

```
~ # vemcmd show card
Card UUID type 2: 58f8afd7-e1e3-3c51-85e2-6e6f2819a7b8
Card name: sfish-srvr-1
Switch name: n1000v
Switch alias: DvsPortset-0
Switch uuid: 56 e0 36 50 91 1c 32 7a-e9 9f 31 59 88 0c 7f 76
Card domain: 1024
Card slot: 4
VEM Control (Control VLAN) MAC: 00:02:3d:14:00:03
```

VSM にモジュールが表示されない場合のトラブルシューティング

```

VEM Packet (Inband) MAC: 00:02:3d:24:00:03
VEM Control Agent (DPA) MAC: 00:02:3d:44:00:03
VEM SPAN MAC: 00:02:3d:34:00:03
Management IP address: 172.23.232.102
Max physical ports: 32
Max virtual ports: 216
Card control VLAN: 3002
Card packet VLAN: 3003
    Processors: 4
    Processor Cores: 4
Processor Sockets: 2
    Physical Memory: 4290351104

```

- ステップ 4** 次のコマンドを使用して、DVS に追加されているホストのポートが一覧表示され、各ポートがホスト上で「Access」または「Trunk」として正しく設定されていることを確認します。

vemcmd show port

例:

```

~ # vemcmd show port
LTL    IfIndex  Vlan    Bndl  SG_ID Pinned_SGID  Type  Admin State  CBL Mode  Name
8      0    3969    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 120
9      0    3969    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 121
10     0    3002    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 122
11     0    3968    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 123
12     0    3003    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 124
13     0     1      0     2     2    VIRT  UP    UP    0 Access 125
14     0    3967    0     2     2    VIRT  UP    UP    4 Access 126
16    1a030100  1 T     0     2     2    PHYS  UP    UP    4 Trunk  vmnic1

```

出力の最後の行は、**vmnic1** が **Trunk** モードで、**CBL** 値が **4** であることを示しています。ネイティブ VLAN の **CBL** 値は、**4** である必要はありません。この値は、許可されていない場合は **0** になり、VLAN **1** で許可されていない場合は **1** になります。これは、ネイティブ VLAN がコントロール VLAN でない限り、問題にはなりません。管理状態 (**Admin**) とポートの状態 (**State**) は「**UP**」となります。

- ステップ 5** 次のコマンドを使用して、コントロール VLAN とパケット VLAN を伝送する **vmnic** ポートが存在することをブロードキャスト ドメインで確認します。

vemcmd show bd control_vlan**vemcmd show bd packet_vlan**

例:

```

~ # vemcmd show bd 3002
BD 3002, vdc 1, vlan 3002, 2 ports
Portlist:
    10 122
    16 vmnic1
~ # vemcmd show bd 3003
BD 3003, vdc 1, vlan 3003, 2 ports
Portlist:
    12 124
    16 vmnic1

```

- ステップ 6** **vemcmd show trunk** コマンドを使用して、次のことを確認します。

- コントロール VLAN とパケット VLAN がコマンド出力に示され、DV ポート グループが vCenter Server からホストに正常にプッシュされている。
- 正しい物理トランク ポート **vmnic** が使用されている。

例:

```
~ # vemcmd show trunk
```

```
Trunk port 16 native_vlan 1 CBL 4vlan(1) cbl 4, vlan(3002) cbl 4, vlan(3003) cbl 4,
```

少なくとも 1 つの物理アップリンクがコントロール VLAN とパケット VLAN を伝送している必要があります。また、複数のアップリンクがコントロール VLAN とパケット VLAN を伝送している場合、アップリンクは 1 つのポート チャネル プロファイルに属している必要があります。VEM をまだ VSM に追加していないため、ポート チャネル自体は表示されません。

ステップ 7 ポートとシステム VLAN の間違った設定が原因で失われた接続を復元します。

```
vemcmd show port port-ltl-number
```

```
vemcmd set system-vlan vlan_id ltl port-ltl-number
```

```
vemcmd set port-mode [trunk | access] [native-vlan vlan_id] ltl port-ltl-number
```



(注) **set port-mode** コマンドを使用する場合、アクセス ポート モードを指定するには、ネイティブ VLAN ID を設定する必要があります。トランク ポート モードを指定する場合、ネイティブ VLAN ID は任意です。ネイティブ VLAN ID を指定しないと、ネイティブ VLAN ID は非システム VLAN 1 に設定されます。

例:

```
~ # vemcmd show port 48
LTL   IfIndex   Vlan   Bndl   SG_ID   Pinned_SGID   Type   Admin State   CBL Mode
Name   . . .
48    1b030000    1      0      32      1   VIRT      UP DOWN DOWN    0 Access vmk1
~ # vemcmd set system-vlan 99 ltl 48
~ # vemcmd set port-mode trunk ltl 48
```



(注) これらの **vemcmd** は回復手段だけに使用して、ポート プロファイル設定を正しいシステム VLAN に更新します。

ログの収集

VEM と VSM の間のネットワーク接続を確認したら、次の手順に従ってログ ファイルを収集し、問題を識別できます。

ステップ 1 VEM 上で次のコマンドを使用して、その UUID を確認します。

```
vemcmd show card info
```

例:

```
~ # module vem 3 vemcmd show card info
Card UUID type 0: 4908a717-7d86-d28b-7d69-001a64635d18
Card name: sfish-srvr-7
Switch name: N1000v
Switch uuid: 50 84 06 50 81 36 4c 22-9b 4e c5 3e 1f 67 e5 ff
Card domain: 11
Card slot: 12
Control VLAN MAC: 00:02:3d:10:0b:0c
Inband MAC: 00:02:3d:20:0b:0c
SPAN MAC: 00:02:3d:30:0b:0c
USER DPA MAC: 00:02:3d:40:0b:0c
Management IP address: 172.28.30.56
```

```
Max physical ports: 16
Max virtual ports: 32
Card control VLAN: 3002
Card packet VLAN: 3003
```

ステップ 2 VSM 上で次のコマンドを使用して、該当する UUID エントリがマップされているモジュール番号を確認します。

show server_info

例:

```
n1000v# show server_info
Mod      Status      UUID
-----
13       absent      4908a717-7d86-d28b-7d69-001a64635d18
```

ステップ 3 [ステップ 2](#) のモジュール番号を使用して、次のコマンドの出力を収集します。

- **show platform internal event-history module 13**
- **show module internal event-history module 13**
- **show system internal im event-history module 13**
- **show system internal vmm event-history module 13**
- **show system internal ethpm event-history module 13**



(注)

問題を解決する際に TAC に連絡する必要がある場合は、[ステップ 3](#) に示されているコマンドの出力が必要になります。

コマンド

VSM モジュールの使用を開始する際の問題をトラブルシューティングするには、次のコマンドを使用します。

- **show svcs neighbors** : svcs ネイバーをすべて表示する。
- **show platform internal event-history module** : プラットフォーム マネージャ モジュールのステートマシンを表示する。

VSM に関する問題をトラブルシューティングするには、次のコマンドを使用します。

- **show platform internal event-history module *module-number***
- **show module internal event-history module *module-number***
- **show system internal im event-history module *module-number***
- **show system internal vmm event-history module *module-number***
- **show system internal ethpm event-history module *module-number***
- **show system internal ethpm event-history int *type slot***